

An abstract painting by Kōji Nomura. The background is a textured, light blue-grey color. A vertical black line runs down the center. To the left of this line, there are several black rectangular shapes of varying sizes and orientations. To the right of the line, there are black shapes including a tall vertical rectangle, a pointed arch, a small square, a larger square, and a smaller square. At the bottom of the vertical line is a small, inverted, reddish-brown shape. On the far right, there is a vertical strip of green, and a large, vertically oriented oval shape with a reddish-pink center and a light brown border. The overall style is minimalist and geometric.

野村 幸弘

初期絵画作品展 1990-1997

2018.7.6fri-7.10tue  
in FLOAT, Nagoya

## 野村幸弘／初期絵画作品展 1990-1997

美術史研究、芸術評論、「幻聴音楽会」の企画、絵画、オブジェ、小説、映像など、多岐にわたる活動により「場所の芸術」を追求してきた野村幸弘が1990年代に制作した未発表のドローイング約100点と板絵30点で構成された展覧会。

30代の初め、2度目のフィレンツェ滞在時に、ほくは突然、絵を描き始めた。教会の窓や階段、科学史博物館の実験器具、スパーコラ博物館の標本、シエナ派の絵画などに触発され、ペンと色鉛筆で毎日、何枚も絵を描き、帰国後、それらのペン画を板にアクリル絵具でタブロー作品にしていた。それは1997年の春に「ロード・ペインティング」と題した個展をはじめて開くより前のことである。

同じ年の秋に大阪、光の教会で「退場人物展」を開いたあと、それっきり絵画作品の発表をやめてしまい、以後、ほくはもっぱら「幻聴音楽会」の企画と映像作品の制作に携わってきた。だから1997年以前の絵画作品は、ずっとほくのアトリエの壁にひっそりと掛けられたままになっていた。

2016年の夏、「ドームのある風景」という8点からなるシリーズ画を描いたことがきっかけとなり、ほくは再び絵を描くようになった。と同時に、以前、描きためていた未発表の作品を中心にした展覧会をどうしても開きたいという気持ちが強くなってきたのである・・・。

野村幸弘



野村幸弘 / 1961年、京都市生まれ。岐阜大学教授。東北大学とイタリア、シエナ大学で美術史を学ぶ。美術史の学術論文、翻訳のほか、芸術評論、絵画・オブジェ・映像の制作を始める。「幻聴音楽会」「岐阜大学芸術フォーラム」などを通じ、「場所の芸術」を追求。



### 関連企画

7/6(金) 13:30 ~ オープニング  
作曲・クラリネット 坂野嘉彦 マンドリン 中村直哉

7/7(土) 15:30 ~ 野村幸弘のトーク「制作と研究の話」

7/8(日) 13:30 ~ 野村幸弘のトーク「イタリアと美術の話」

\* 参加無料 事前申込不要

会場構成：無限ポンプアップ委員会 主催：幻想工房

●会場 / FLOAT フロート ●会期 / 2018年7月6日(金)～7月10日(火) 11:00～18:00 (最終日は11:00～16:00) 会期中無休

〒464-0819 愛知県名古屋千種区四谷通 2-8 YOU YOTSUYA 3F 地下鉄東山線 地下鉄名城線 本山下車 5番出口右へ徒歩3分  
※駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

●お問合せ / 幻想工房 Tel・Fax 052-331-9111 〒460-0012 名古屋市中区千代田 4-14-27 email:genso@miomio.jp

